

◆ 健康福祉まつりに参加！

10月16日の朝は、あいにく雨に見舞われましたが、今年も緑のまちづくりの会は「健康福祉まつり」に出店しました。

押花ラミネート加工の予定は雨のため中止とし、苔玉作りに集約して来客を待ちました。午後になると天候も回復してきて、知名度の高い緑の会の苔玉作り体験に、次々と子どもを含む参加者が押し寄せ、サポート会員は俄然忙しくなり対応に追われていました。

体験した子ども達は、みんな満足げな笑みを浮かべて会場を後にしていました。



◆ 拡げる知識・研修旅行！



10月19日は、恒例の研修旅行で会員16名が参加しました。研修先は先ず、八女市星野村の絶滅危惧種オグラコウホネ観察、眺めの良い麻生湖畔を散策し、昼食後、手入れの行き渡った「かぐや姫の森」等を見て今後の森づくりを学びました。

その後、八女市岩戸山歴史資料館に移動し、前方後円墳遺跡、石人石馬、古賀との関係など詳しい説明を受けました。

田淵遺跡や船原古墳のある古賀市からの見学ということで、一層丁寧な説明を頂き、一同は大いに古代に思いを馳せて、歴史を学び、思い出に残る研修旅行になりました。

◆ “きれいに咲いて！” 青柳小花壇

10月24日、すがすがしい秋空のもと、青柳小学校1年生51名は、校内の花壇づくりに取り組み、緑の会員9名がサポートしました。

植えた草花は、4月に咲くチューリップ・ムスカリの球根、花をつけているキンギョソウ・バコバ・パンジーとハボタンなどでした。子ども達は小さな手で懸命に穴を掘り、花苗を植え付けていました。

植えた後、子ども達は「スコップで掘るのは難しかった」「きれいに咲いてほしい」「楽しかった」と話していました。



◆ 花壇作業は多忙！

10月17日の“はなちどり”定例会は、会員12名が集り、様々な作業を分担して取り組みました。

花壇の周囲の草を刈る人、大雪山ヒマワリの古い花を刈る人、次のイベントの苔玉盆栽の準備をする人、ハボタンとパンジーに施肥する人、苔玉道具を整える人、青柳小学校花壇の花苗購入に走る人、それぞれが自発的に立ち回り、この日の作業を終えました。

イベントは、先ずは準備、“備えあれば憂いなし”です。



◆ クズは植林地外から侵入！

10月当初の“森づくりの日”は、台風で流れたため、21日に古賀グリーンパークの植林地に7名の会員が入りました。この日は道路の角地になる急斜地の上で、注意しながらのクズ駆除でした。

ここは、クズの発生が著しく、隣接の植林地にランナーを伸ばし、木に登り上がる場所でした。今回は地域の方が先に草刈りが終わった後で、クズの根はそのまま残り、今後クズの繁茂が予想されるため、この機会に集中的にクズ駆除にあたったものです。

クズ駆除は、別の場所も有志で3日間作業しています。



◆ 古賀東小でドングリ工作授業！

10月13日は、古賀東小学校1年生89名を対象に“えんがわくらぶ”の企画で、緑の会が実技指導するどんぐり工作授業がありました。

会員6名、えんがわくらぶの方々と先生方が指導役に当たり、どんぐりコマとヤジロベーを作り上げました。子ども達はコマが回ると大ハシャギ。ヤジロベーはバランスをとるのが難しく、苦心の末、支木の上に立つと大喜びしていました。最後に子ども達は、私達に感謝を込めて、宮崎駿のトロの歌「散歩」を歌ってくれました。



◆ コスモス講座でこけ玉づくり！

10月26日は、リーパスプラザ交流館工芸室でコスモス講座受講生19名に、青崎安孝講師の指導で、エコ皿とこけ玉づくりを会員7名でサポートしました。

皆さんは、新聞紙とセメントを丁寧に混ぜ込み、こけ玉の大きさを考えながら、各々のエコ皿を作られました。次はこけ玉の糸巻の練習です。本番は、上手く巻くのが難しく「丸くならない！」との声も…。でも、こけ玉を作り上げた時の「できた！」「楽しかった！」の満足された声を聞いた時は、私達も嬉しく楽しい時間を過ごすことができました。



◆ イオン贈呈式に会員出席

10月8日午後、イオン福津店で黄色いレシート活動資金の28年度上期の贈呈式があり、当会からは江本会員が参加して入金カードを受領しました。いただいたイオンギフトカードは、会の活動に必要なプリンターインク、印刷用紙などの購入に活かされます。

毎月11日の黄色いレシートの日、買い物に訪れたお客さんの好意により投函されたレシート総金額の1%がイオン側から交付されるもので、当会の貴重な資金源の一つになっています。

◆ 11月・イベント目白押し！

11月は、青柳小学校ドングリ拾い、まつり古賀、PlayForest2016in古賀グリーンパーク、青柳小学校どんぐり工作など、イベントが多くあり、準備は早めて取り組むことを心掛けてください。

四方山話

年を重ねるといことは…

最近、体力や記憶力の低下を身に染みて感じています。特に連れ合いは、ここ3年程、病気と仲良くなったみたいで、3ヶ所の病院に通っています。昔から、体力には自信があったので、現実を受け入れるのに抵抗があるようです。「医者、何でもかんでも、歳のせいにする！」と、怒っています。

最近、「アレは、どこにやったかな？」「アレって、なあに？」「昨日、持って帰って来たら…」「何を持って帰ってきたの？」「その名前が出てこんから、困っとるたい！」「そんなの私にわかるわけなかる！」など、この種の会話が増えました。

以前、一緒にボランティア活動していた先輩が、「高齢者福祉のことは、勉強して分かったつもりになってたけど、自分が歳を取ったら、全然わかっていなかったことに気がついた」と言われたことがありました。その時は、「そうかなあ〜？」と聞いていたのですが、いざ、自分が年を重ねてくると、「名前を思い出せない」「若い時は、もっと手際よく出来たのに…」「一つことに集中すると、周りの変化に気づかない」など、能力の衰えを受け入れることが出来ない自分がいるのです。

お願いです！ どなたか、上手に歳を重ねて生きていく“すべ”を教えてください！

新町直子